

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Jun Je-Goo
出身地：韓国・忠北
所属：産業資源部
日本滞在：2007年1月～

私の二回目の日本生活

全 濟九

日本で約二年間の留学生生活を終えて韓国に帰ったあと、今回六年ぶりにもう一度日本で勤務することになった。前回の留学生活では家族みんなが日本へ来ることができず、楽しく過ごせたが、今回は高校三年生になった長女を大学受験のために韓国に残しているため、いつも気になっている。

日本の生活で必要なものは自転車である。自転車さえあれば車では近づけない路地の目的地まで行くことができ、便利であり、交通費も節約できて経済的である。韓国でも最近、自転車を通勤に利用しようという運動が全国的に行われている。近年韓国の各地方自治体では道路に自転車専用レーンを新たに作って、自転車に乗りやすい環境を整備している。自転車の乗ると自動車排気ガスによる大気汚染を抑制でき、健康にも役立つ一石二鳥の効果がある、と政府は幅広くマスコミを通じて広報している。

ところが我々家族が乗る自転車を日本で買う際に「事件」が発生した。私と妻、次女の三人で三台の自転車を購入することにした。配達に七日くらいかかるというので、すぐに必要な妻と私の自転車は店で直接受け取り、娘の分は配達させることにした。自転車屋さんによれば、二台を同一住所に配達する場合は販売促進キャンペーン

により、配送料が無料になるということだった。三台買って一台だけ配達させる場合でも、その一台に対する配送料は当然無料になると思っていた。

しかし、自転車屋さんは一台中の配送なので配送料を支払わなければならないと言った。韓国人である私の考えでは、三台も買っているわけだし、二台を配送するより一台を配送する方が楽なはずだが、なぜ配送料を支払うべきか理解ができなかった。おそらく、二台以上配送した場合は無料という文句を拘子定規に適用したためなのだろう。結局、すぐに自転車が必要だったので配送料を支払ったが、もつと融通を利かせてくれてよかったのではないかと。

外国人が日本を訪問した際に感じたことで、必ず言及されるのが日本人の親切さである。私も留学時代になじみのないところに行く時は通りがかりの人に道を聞くことがよくあった。忙しいはずなのに詳しく説明してくれることもありがたかったが、わざわざ目的地まで同行してくれたり、周りの人に聞いて案内してくれる人までいた。私が韓国で外国人にあのように親切に案内してあげられるか、我が身を振り返って考えてみることもしばしばであった。

日本人は韓国人よりもよく漫画を読む。

あるとき、都内で信号を待っていたタクシーの運転手さんが漫画を読んでいた。ちょっと見た限りでは五〇歳は越えていたと思う。漫画は子どもが読むものだという認識が支配的な韓国では、想像もできない光景だった。ある日、日本人の友人に「韓国の親は子供が漫画を読むことが好きではない。日本ではどうか」と聞いてみた。友人曰く、「日本の親は漫画を読むことに文句をいわない。漫画はユーモアと想像力を豊かにして暗記力を養うなど、子供の成長に役立つことも多い。だから何もいわない。しかし、コンピュータゲームには反対する。頭が悪くなるし目にもよくないからだ」。漫画よりコンピュータゲームに寛大な韓国の親に聞かせてあげたい答えだった。

日本での買い物は私に期待と楽しさを与えてくれる。韓国よりも割引してくれる行事が多いからだ。タイムセール、深夜セール、土曜セール、日曜セール等、数多い割引行事がある。今日はどんな品目かどのくらい割引になるのか、いつも期待させられる。今晚も日本の多様な食材を買って作る夕食を楽しみながら、二回目の私の日本生活をどのように有益に過ごすか、思いをめぐらすことにしよう。

(海外客員研究員／原文日本語)